

日本精鋇

連結経常益12億5000万円へ

09年度 製造コスト削減

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鋇は、2009年度の連結経常利益目標を06年度比50・4%増の12億5000万円に設定した。目標達成のためアンチモン事業では製造コストの削減や品質の差別化、新商品の開発体制を拡充する。金属粉末事業は売り上げ加工数量を増やすほか、粉末冶金向け金属粉の生産システムを再構築する。電子部品向け微粉の生産体制も整える。

09年度までの連結数値目標は売上高124億円で06年度比41・3%増、純利益は69・8%増の5億5000万円。また連結配当性向25%を指標に年10円配当を目標にする。06年度の配当性向は24%で年6円だった。

アンチモン事業は連続操業により製造プロセスの革新を進める。全体的な製造フローを改善することで、生産性や製品得率の上昇、省エネ操業の推進を図り製造コストの削減につなげる。中間品在庫の圧縮や資材コスト削減もめざす。

製品の低鉛化や粒径制御などで品質の差別化も図る。需要家に対する技術支援も積極的に行い販売シェアを高めていく。アンチモン化合物以外の新商品の開発研究、既存商品の改良研究も進める。中国に合弁生産会社を設立することも検討している。

連結子会社の日本アトマイズ加工で事業展開している金属粉末は、電子部品材料向けの微粉の売り上げ加工数量を06年度比で42%増やす。粉末冶金向け金属粉は37%増をめざす。生産体制も1炉3交代操業のソフト制を導入する。従来は2炉定時操業制。増産と電力代などのコストを削減する。

した07年9月中間期の連結決算は増収増益だった。アンチモン事業は原料代の上昇と生産減に伴う原単位当たりの加工費上昇の影響で減益。金属粉末は需要が好調に推移し増収増益だった。

還元炉や分級機も増設する。生産性の向上と生産能力の大幅増強を図るため、その他の生産設備も充実させる。人員も拡充する。同社がこのほど発表